

美術館評価とは

美術館が当該美術館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき美術館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めるものです。

栃木県立美術館では、美術館評価の実施に向け検討・準備を進め、平成 27 年度実績の評価については試行的に実施し、平成 28 年度実績の評価から本格実施に移行しました。

評価の方法

当館による自己評価と栃木県立美術館評議員会による外部評価があります。

- ・自己評価は、目標の達成状況について定量的評価及び定性的評価を行うものです。
- ・外部評価は、自己評価結果の妥当性を検証し、今後のあり方に関し助言を行うものです。

栃木県立美術館評価シート（平成28年度実績）

1 定量的評価

達成度 A：100%以上 B：99～70% C：70%未満

項目	評価点	目標値 a	達成度	評価	備考
		達成値 b	(b/a) %		
1 調査研究関係	① 研究公開と 社会貢献回数	40	102.5%	A	
		41			
2 収集・保存関係	② 収集作品件数	19	21.1%	C	
		4			
	③ 収集作品の貸出点数	70	134.3%	A	
		94			
3 展覧会関係	④ 企画展開催回数	4	100.0%	A	
		4			
	⑤ 企画展関連イベント回数	20	70.0%	B	
		14			
⑥ 常設展展示替回数	4	100.0%	A		
	4				
⑦ アートリンク実施回数	2	100.0%	A		
	2				
4 普及教育関係	⑧ アートクルーズ来館学校 数	20	65.0%	C	
		13			
	⑨ イベント開催回数	12	133.3%	A	毎月1回以上
16					
⑩ 県教委・あーとネット等教育 関係団体との会議	3	533.3%	A		
	16				
5 施設設備関係	⑪ 利便性向上等のための改 善箇所数	2	100.0%	A	
		2			
6 新たな取組関係	⑫ 新規に取組んだ事業数	1	400.0%	A	
		4			
	⑬ ボランティア増加人数	10	30.0%	C	
3					
7 広報関係	⑭ 収集作品情報の新規提供 数	12	116.7%	A	毎月1回以上
		14			
	⑮ ホームページアクセス件 数	200,000	128.6%	A	
		257,244			
⑯ SNSによる情報提供回数	60	156.7%	A	毎週1回以上	
	94				
⑰ 年度及び企画展毎の広報 会議回数	5	100.0%	A		
	5				
8 入館者数関係	⑱ 5カ年間の入館者数 (単年度目安)	275,000	73.0%	B	企画展及び常 設展の観覧者 数合計
		55,000			
⑲	40,167				
	9 友の会・ショップ・レストラン関係	⑲ 友の会・ショップとの連 絡会議回数	2	100.0%	A
2					
⑳ レストラン企画関連ラン チ提供回数	4	100.0%	A		
	4				

2 定性的評価

達成度 A:91%以上 B:90~70% C:70%未満

評価項目 (チェック項目数)	チェック項目数×3点 (a)	達成度 (b/a) %	評価	備考
	◎×3+○×2+△×1点 (b)			
1 館運営全般 (9)	27 25	92.6%	A	
2 調査研究関係 (5)	15 13	86.7%	B	
3 収集保存関係 (7)	21 19	90.5%	A	
4 展覧会関係 (9)	27 22	81.5%	B	
5 普及教育関係 (10)	30 25	83.3%	B	
6 施設管理 (5)	15 14	93.3%	A	
7 中核機能関係 (6)	18 18	100.0%	A	
8 新たな取組関係 (6)	18 16	88.9%	B	
9 広報関係等 (7)	21 18	85.7%	B	
10 友の会関係等 (6)	18 17	94.4%	A	

定量的評価

定量的評価は、評価項目ごとに近年の実績の平均的数値等を踏まえて目標値を設定し、目標値に対する当該年度の実績値の割合（達成度）で評価したものである。

A：達成度 100%以上、B：達成度 99~70%、C：達成度 70%未満

定性的評価

定性的評価は、評価項目（チェック項目）ごとに館員がその意識や姿勢等を自己評価し、その評価を、担当課長→副館長→館長の順に検討した上で最終評価としたものを点数化し、各項目の満点数に対する当該年度の得点数の割合で評価したものである。

A：達成度 91%以上、B：達成度 90~70%、C：達成度 70%未満

〔◎：十分達成できた（3点）、○：概ね達成できた（2点）、△：達成不十分（1点）〕

3 評価結果一覧

区分	A評価	B評価	C評価
定量的評価項目 (20)	15項目	2項目	3項目
定性的評価項目 (10)	5項目	5項目	0項目

4 新たな取組や特徴的な取組等

概 要	<p>① 3館連携事業の実施 英国大使館別荘記念公園の一般公開に因んで、県立文化施設3館（美術館、博物館、総合文化センター）が「イギリスと日本の文化交流」を共通テーマとした連携企画事業を実施。当館では、企画展「旅するイギリス美術」を開催した。</p> <p>② 最先端の現代アートを世界に先駆けて公開 （有）カイカイキキ代表で我が国を代表する現代芸術家である村上隆氏の特別な協力により、ニューヨークを拠点に活動している若手アーティスト、ヒュー・スコット＝ダグラスの新作を世界に先駆けて展示した。</p> <p>③ 多言語化に向けた取組 県内美術館・博物館の多言語化推進に向け、当館を会場にシンポジウム「国際化するミュージアム」を開催（とちぎの魅力発信実行委員会主催）した。 講演：「イギリスの美術館 その戦略と展望」桜井武熊本市現代美術館館長 ※当館の本格的な多言語化事業は平成29年度に実施</p> <p>④ 市町との連携による地域の文化振興等の取組 茂木町出身の美術家高木修の本格的回顧展「高木修展 特異な空間へ」開催にあわせ、コレクション展で茂木町ゆかりの作家を特集（島崎雲圃と小泉斐）。 また、ミュージアムショップでは茂木町の協力により「道の駅もてぎ」の地元産製品を販売した。</p>
成 果	<p>① 県立文化施設3館が統一テーマとしてイギリスに関連した連携企画事業を実施したことにより、広く多くの県民の興味を引きつけることができ、相乗効果の発揮が図れた。</p> <p>② 海外の現代芸術の先進的な状況を紹介したのは、1998年に開催した「リアル／ライフ イギリスの新しい美術」展以来であった。通常より県外からの来館者が多く見られ、外国人の来館者も目立った。</p> <p>③ シンポジウムの開催は、地域の観光振興における美術館等の関わり方や課題、多言語化の重要性等を考える好機となった。</p> <p>④ 茂木町と連携した取組により、茂木町の文化や観光振興にも一定の成果があった。こうした市町との連携のスキームは、今後同様の趣旨の取組の実施を検討する上で参考となった。</p>

5 自己評価総括

<p>評 価</p>	<p>【評価総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 28 年度は、館内改修工事に伴い約 2 ヶ月間休館した影響等もあって、定量的評価においては 3 項目が C 評価となり、また入館者数等の改善を図ることもできなかったが、定性的評価においては前年度評価（試行）において不十分であった項目についてそれぞれ具体的な改善が図られている。 またさらに、限られた財源の中で新たな事業等にも意欲的に取り組んでおり、これらを総合的に勘案すると概ね適正な運営であった。 ・ 自己評価の結果については、館員へフィードバックすることにより問題意識等の共有を図り、さらなる改善に努めていく必要がある。
<p>課 題</p>	<p>【今後の主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ より魅力ある展覧会の充実と広報の強化 ◆ 展示内容の多言語化など国際化への対応 ◆ 作品の収集及び収蔵スペースの確保 ◆ 老朽化した設備等の計画的整備
<p>対 応 の 方 向</p>	<p>【対応の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 他の美術館や作家等との連携及び情報収集等により、多くの入館者に感動を与えることができる、より魅力ある展覧会の充実に努める。また、2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて平成 28 年度に策定された「とちぎ版文化プログラム」に基づき、国内外への本県の魅力発信に資する展覧会を実施していく。SNS の積極的活用等により広報力を強化し、入館者数の一層の増加に努めていく。 ■ 文化庁補助事業の活用等により、展示内容や案内資料の多言語化などに取り組んでいく。 ■ 優れた作品の収集に向け、引き続き県内外の作家等の情報収集に努めるとともに、保管棚の増設など、収蔵庫におけるスペース確保方策の検討を進める。 ■ できるだけ早急に要補修箇所の整備を行うとともに、優先順位を勘案しながら老朽化した設備の計画的更新を進めていく。

6 外部評価

意見等	<p>平成 28 年度の美術館の運営状況については、概ね適正に運営されたと判断し、次の項目を意見とする。</p> <p>1 広報の強化について SNSによる情報提供回数の実績が目標値を上回ったことは評価できるが、集客の面でも SNS の発信は大きな効果が期待できるので、今後ともより積極的に SNS を活用した美術館情報の発信に取り組むべきである。</p> <p>2 自己評価について 定量的評価において、達成度 70%未満で評価が C となった項目については、その要因の分析と改善を図るための取組方針等を自己評価総括として説明を加えるべきである。また、必要に応じて目標値の見直しも検討すべきである。</p> <p>3 ボランティアの活動について 現在、広報関係業務についてボランティアを活用しているが、ボランティア登録者数の増加を図る上でも、業務を限定することなく、より幅広い活用法を検討するなど、さらに充実を図るべきである。</p>
-----	--

定性的評価項目チェックリスト

◎：十分、○：概ねできた、△：不十分

区分	チェック項目	達成度
1 館運営全般	1 館と本庁主管課との連絡調整を十分に行ったか	◎
	2 定例の課長会議及び学芸会議は開催できたか	◎
	3 突発的な事案に関して、課長会議等は十分に開催できたか	○
	4 館長、課長等と館員のコミュニケーションは良好だったか	◎
	5 本庁主管課及び全館員が承知する中期・年度計画は策定したか	○
	6 自己評価は実施したか	◎
	7 外部評価は実施したか	◎
	8 栃木県立美術館評議員会の意見等は全館員に周知したか	◎
	9 年報やホームページ等で館の運営状況を公表したか	◎
2 調査研究	1 調査研究内容について学芸課内で情報共有しているか	○
	2 調査研究予算の獲得について努力をしたか	◎
	3 各学芸員は幅広く見聞を広めているか	◎
	4 県内の現役作家等についての研究にも積極的に対応したか	○
	5 我が国及び世界の現在の美術状況についても研究しているか	◎
3 収集保存	1 収集方針に沿った収集を行ったか	◎
	2 作品の保存状況等について定期的に点検したか	◎
	3 収蔵庫等の温湿度管理は適正に行ったか	◎
	4 収集作品の修復は計画的に行ったか	○
	5 収集作品の他館及び県内市町への貸出に前向きに対応したか	◎
	6 寄贈者に対して適切な対応を実践したか	◎
	7 収集に関する情報収集は定期的に行っているか	○
4 展覧会	1 企画展・常設展は、計画に近い内容で開催できたか	◎
	2 出品リストは作成・配付したか	◎
	3 音声ガイドは順調に作成・貸出しできたか	○
	4 図録又は解説のための小冊子等を作成したか	◎
	5 展示状況について定期的に点検したか	○
	6 入館者の鑑賞状況等をチェックし交流等を図ったか	○
	7 入館者の満足度等をアンケート等で把握し、その結果を検証したか	○
	8 企画展の自己評価を行い、検証をしたか	◎
	9 オリパラを念頭に置いた展覧会構想の検討を意識していたか	○

5 普及教育	1	イベントの定期的な開催について努力したか	◎
	2	参加者数は満足のいくものだったか	○
	3	参加者の満足度等をアンケート等で把握し、その結果を検証したか	◎
	4	各事業では講師等の協力を十分に得ることができたか	◎
	5	団体利用の際にオリエンテーションの実施等に積極的に努めたか	◎
	6	県教育委員会所管課との意見交換等は効果的に実施できたか	○
	7	学校との連携をより深めることができたか	○
	8	学校の教員向けのイベントは開催したか	◎
	9	障害者の美術鑑賞の研究及び情報収集に努めたか	○
	10	各事業の振り返りを実施したか	○
6 施設管理	1	施設の老朽化対策等について改修計画を共有しているか	○
	2	施設設備の危険箇所等の有無について定期的なチェックはしたか	◎
	3	館を挙げての防災訓練を実施したか	◎
	4	施設面での国際化への対応について検討しているか	◎
	5	不慮の事故等に備えての保険には通年で加入したか	◎
7 中核的機能	1	県内の他の美術館・博物館等との積極的な交流を図ったか	◎
	2	市町美術館等の求めに応じた、適切で親身な助言等はできたか	◎
	3	県内外の学会、研究会、委員会等に積極的に貢献したか	◎
	4	栃木県博物館協会の事業等に積極的に貢献したか	◎
	5	各種団体等の協力要請に、前向きな対応姿勢を示せたか	◎
	6	学芸員実習生の積極的な受入と適切な指導は図れたか	◎
8 新たな取組	1	館としての新たな取組の模索を常に意識していたか	◎
	2	外部団体等との連携の模索を常に意識していたか	○
	3	連携による事業化を念頭に外部団体等と接触したか	◎
	4	ボランティアの活用は順調に推移したか	◎
	5	ボランティアとの関係性の向上のための積極的な交流に努めたか	◎
	6	他館における新たな取組等について情報収集に努めたか	○
9 広報関係等	1	企画展毎の広報会議の早期開催について努力したか	◎
	2	広報体制を確立し、各自の役割分担が明確になっているか	○
	3	ホームページ上で、必要に応じたタイムリーな情報提供ができたか	◎
	4	フェイスブック、ツイッターの活用は十分だったか	◎
	5	広報対象毎に戦略的に効果的な広報を行ったか	○
	6	広報は衆目を集めるような魅力的なものにする配慮をしたか	◎
	7	報道関係者との交流には積極的に努めたか	○
10 友の会等	1	友の会への支援（会員増への協力など）を常に意識していたか	◎
	2	友の会とのコミュニケーションに努めたか	○
	3	ショップの魅力向上策について検討したか	◎
	4	ショップ運営に関して進んで協力したか	◎
	5	レストランの利用促進に協力したか	◎
	6	レストランの企画展関連メニュー等に関してともに検討したか	◎